

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立上尾橘高等学校		Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	学校の現状や生徒の実態を踏まえ、学校として目指す方向が明確に示されている学校像である。生徒・保護者・地域の期待やニーズに応えたものとなっているが、学校の特色や強みを生かしたものにできると更に良い。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	目指す学校像を踏まえ、学校の取り組むべき方向が四つの柱として設定されている。やや網羅的な目標となっているので、中期的な視点に立ち、課題の解決に向けて、更に重点化した内容にすることが望まれる。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校評議員や学校評価懇話会の意見をまとめて、教職員に伝え、共通理解が図られている。学校関係者の意見などをうまく活用しながら分掌・学年等が連携して目標達成を目指す体制が整えられ、学校自己評価システムが組織的に運営されている。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	重点目標達成のため、分掌・学年のシートが作成されている。全体的に方策が前年踏襲型となっているので、現状と課題を分析し、より具体的なものにすると良い。評価指標については、方策の達成状況を判断しやすい指標となるよう、取組指標と成果指標をうまく組み合わせ設定することが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が学校の課題を踏まえた明確な学校経営の方針を持ち、毎週「校長通信」を発行するなどして教職員の共通理解を図っている。校長のリーダーシップが的確に発揮され、企画委員会等が適切に機能しており、「ブラッシュアップタイム（基礎学力の定着を図るための学び直し）」を1学年の全教科で実施するなど組織的な取組を展開して、成果も見られ始めている。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートや学校関係者評価などを基に、取組を検証するための情報収集に努めている。アンケートの結果や学校関係者の意見等を詳細に分析して新たな課題の析出や方策の見直しを検討するなど、次年度のより具体的な取組につなげ、スパイラルアップを図るようにはしていただきたい。	
特記事項			